

『動労千葉』54年4月期昇給団体交渉を廃止 5月18日より

『幻の交渉団』をブッチあげて、団体交渉破壊に
必死の『本部』暴力集団のあがきさうじくだけ！

すでに一一〇〇名を越えて増え続けている「団結署名」とつぎつぎと勝ちとられた各「支部結成」という、わが動労千葉の堂々たる団結力、組織力は遂に決定的な勝利の地平を切り拓いた！ 労働基本権確立にむけたわれわれの断固たる闘いの前に、五月一六日、国鉄当局はついに「五四年四月期昇給」交渉について、公労委より出された見解を正式に受諾し、団体交渉に応じることを認めたのである。団体交渉は具体的に五月一八日より行われることが確認された。このことは「本部」暴力集団が今日まで行ってきた「団交の出来ない」「公労委すら認めない」「動労千葉というデマ宣伝が全く根拠のないものであったことを何よりも鮮明に示している。同時に、このわれわれの前進に大ショックをうけた中央「本部」暴力集団は五月一八日〇二〇日、青年部全国動員と関東地評の親組合も含めた数百の動員をもって動労千葉の団体交渉をなんとしても破壊せんと血迷った妨害にうって出てきたのである。

闘いを背景に、団交権
確立へ大きく前進！

5・18・19・20の総決起で新
たな破壊策動を粉碎しよう！

われわれは、七九春闘を闘い抜き、同時に4・26〇〇を労働基本権確立をめざす闘いとして48Hストを構えて闘い抜いた成果を更に前進させ、動労千葉を「一四〇〇名を代表する唯一正統の労働組合」として認めさせる闘いを着実に前進させている。

中央「本部」暴力集団は、五月一五日の動労第一〇四回臨中委において、金・力にものを言わせようという全くブルジョア的発想で強行した「全国オルグ」が当然にも破産したことを隠蔽するため、このような常軌を逸した破れん恥な破壊策動を開始したのである。

中央「本部」はこのわれわれの当然の勝利・前進に焦り、「大山鳴動して……」たったひとりの組合員も獲得出来ないというジレンマの深まりの中で「当局・国労への泣きつき路線」を唯一の「活路」として今度は動労千葉の団体交渉を破壊するためのみで、暴力的な介入を画策しているのだ。

何ひとつ前向きな総括が出来ないばかりか、一〇四臨中方針書には「現状は困難である」などの泣きごとを並べたなど沼地であえぐ暴力集団の実態はいよいよ鮮明になっている。焦りかられた暴力集団は中江前中央本部副委員長をはじめ各級役員・活動家二八名に対し、「新たな罪状」と称して査問委員会の設置を行うという、うろたえぶりである。

中央「本部」を代表すると自称する「幻の交渉団」をデッチ上げ、ことあるうちに「五・10ダイ改」に「第二の貨物安定宣言」を出すことをえさに当局に泣きつき動労千葉破壊を企らしてきた。つまり千葉の一四〇〇名の労働者の生活を守り、労働条件を獲得するのが目的ではなく、逆に千葉における動力車職場の労働条件をブチ壊すことによって動労千葉を破壊しようとする策動なのである。

動労千葉の再審査請求を「却下」しておきながら査問委を「設置」するなど、全く矛盾した組織運営であり、規約・規則無視の体質も露わに次期全国大会においては勝手気ままな規約「改正」をも企むというところまで、追いつめられ凶暴化してきている。

「本部」暴力集団に動労千葉の労働条件を云々する資格のないことははっきりしている。彼らが一体千葉で働く国鉄労働者の誰を代表しているというのか？！ またどこの職場生産点に交渉内容を実践する足をもっているというのか？！ 全くとんだお笑い草である。

動労千葉の組織体制は、着々と整備されている。全ての誹謗、中傷、デマはわれわれの闘いの前には、全く通用しないことを更にはっきりと思い知らせてやるうではないか。

5・18・19・20、総決起して闘いぬこう！

5・20三里塚現地総決起集会へ
圧倒的結集をかちとろう！
農を考へる港をめぐり、
「中港」阻止一周年・二期工事阻止、

日時：5月20日（日）12時
場所：茨山町岩山
※作業服持参。10時
30分、成田運転区集合。

訂正

版二二一号、査問対象者一覧に印刷もれがあり、追加して、おわびします。
八津田沼V

重見 敏夫